

令和6年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	50
学校名	富山県立富山総合支援学校

学校の現状と課題	<p>令和6年元日に発生した能登半島地震では、本校児童生徒に被害はなかったが、各家庭や避難所で、不便で不安な時間を過ごした。富山市地震防災マップによると、本校付近に走る呉羽山断層全体が活動するとマグニチュード7.2規模の地震が発生し、本校付近の予測震度は震度6強から震度7となる。さらに、本校西側には急斜面の山林があり、がけ崩れの特別警戒区域、土砂災害の警戒区域となっており、地震や大雨の際に土砂が流出する状況が起こりうる。</p> <p>本校では、地震、土砂災害に対する避難訓練を毎年行い、訓練前には、教職員の講習会も行っている。しかしながら、万が一、訓練想定より大きな地震が発生した場合には、どのような状況が起こるのか、そして、肢体不自由のある児童生徒と軽度知的障害のある生徒がより安全に避難するためにはどのような方策を取ったらよいか、学校全体で学び、備えることが課題であると考えた。また、従来より実施してきた各避難訓練・防災教育、教職員対象の講習会について、実施の仕方、想定等を見直し、実際の災害現場で、教職員、児童生徒がより適切な避難行動をとり、児童生徒の安全を確実に守ることができる防災体制作りにつなげる必要があると考えた。</p>																								
テーマ(特色)	児童生徒の命を守るための防災体制の整備																								
設定した「テーマ」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員に対する取組として、外部の専門家による防災研修会を実施した。学校の立地を踏まえた災害想定と、児童生徒の安全な避難のために取るべき避難行動などについて、知識を深めることができた。また、防災グループワークを年間に4回実施した。 ・児童生徒に対する取組として、外部の専門家による防災教室を実施した。また、地震・土砂災害の避難訓練後に学年等の小グループに分かれ、「2次避難後、保護者迎えまでの待機時間の過ごし方」についてのグループワークを行った。さらに高等部生徒は、「緊急時避難用具を使用しての搬送体験」及び「防災リュック整備に向けた備蓄品・非常持ち出し品選定につながるグループワーク」を行った。災害が起こったとき、自分の周囲に何が起き、どう行動を取ればよいかについて、具体的に考える機会となった。 ・家庭との連携を深める取組として、防災通信の発行と、これに伴うアンケート実施、防災への取組についての記事のHPへの掲載を行った。学校の取組について家庭に知ってもらうとともに、情報交換、意見収集ができた。 ・防災備蓄品について教職員のグループワーク、外部専門家からの助言、保護者から寄せられた意見を基に検討し、優先度の高い物品の購入・配備を進めることができた。 ・上記の取組を通して、学校の「児童生徒の命を守るための防災体制の整備」は、ソフト・ハードの両面で進展があったと言える。 																								
実施内容(具体的に記入する)	<p>○ 避難訓練・防災教育の見直し 防災に関わる訓練や講習会の機会などに絡め、年間4回の教職員によるグループワークを実施し、小グループでテーマについて話し合いを行った。災害時における対応等について検証したり、搬送用具の設置場所、防災備蓄品の保管場所、種類と数量などについて情報共有がなされたりした。検証したことを基に、危機管理マニュアルや訓練・講習会内容の見直しを行ったり、備蓄物や搬送用具の購入につなげたりすることができた。グループワークのテーマは、以下のとおり。</p> <p>グループワーク：①「本校における備蓄物・物品」、②「避難時の児童生徒の搬送」、③「被災時の避難場所等」(児童生徒と実施)、④「緊急時保護者引き渡し」</p> <p>○ 外部講師による防災研修(教職員対象)、防災教室(児童生徒対象) 富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 准教授 井ノ口 宗成 氏を外部講師として迎え、防災研修(教職員対象)、防災教室(児童生徒対象)を実施した。</p> <p>防災研修では、学校の立地上、警戒しなければならない事象について、ハザードマップや気象庁のキキクル等の活用の仕方も含めて分かりやすく解説されたことにより、教職員の防災への理解が高まった。特に、土砂災害の危険が大活い山側に位置する寄宿舎について、避難の判断基準が明らかになり、避難時に必要な態勢づくりが進んだ。</p> <p>防災教室は、児童生徒の実態から2グループに分けて実施した。前半のグループでは、地震が起きたときのために、1次避難の仕方を確認し、何度も練習を積むことが大切であることが伝えられた。後半のグループでは、災害が起きたときに身近で起こる事象について具体的に知り、自分の身を守るために必要な行動についてワークショップ形式で考えた。そして、いずれも落ち着いて、教師の言うことを聞いて避難することが大切であることが伝えられた。</p> <p>○ 家庭との連携を深める取組 「とみそう防災通信」を年間5回発行した。また、このことに併せ、学校の災害備蓄品等について保護者アンケートを実施した。「家庭の備えの参考になった。」「学校の備えについて知らせてもらい、安心した。」などの感想や、学校に必要な備蓄品等についての意見が寄せられた。</p> <p>○ 災害備蓄品の点検と整備 上記の取組から、学校の災害備蓄品を点検し、優先度の高い緊急時避難用具や児童生徒一人一人への貸し出し用防災リュック等の購入を進めるとともに、従前からの検討事項であった三日分の菓の備蓄についても来年度より行うことになったことから、倉庫の一室を正式に備蓄庫として使用することになり、整備を進めている。</p>																								
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	<p>火災、地震・土砂災害の避難訓練の実施に当たり、事前・事後学習を行っているが、内容が児童生徒の実態により合ったものに改善されたことから、児童生徒が必要感を高めて取り組む様子が見られた。また、児童生徒が取り組む防災に関する学習全体に、グループワークによる話し合い活動や体験型の活動を取り入れたことで、児童生徒に被災時の状況を具体的にイメージして周囲と共有し、自分自身の避難行動についてより主体的に考えようとする態度が育っていると考える。</p> <p>外部の専門家による防災教室においても、地震発災時に「家の中」、「学校・職場」、「街」、「山・川・海」では、それぞれどんな状況が起こりうるか、また、その状況で身を守るにはどうしたらよいかについてワークショップ形式で考える活動で、生徒は、じっくりと集中して考え、ワークシートに書き込んだり、周囲の友達や教師と意見を出し合ったりして、積極的に取り組んでいた。</p> <p>さらに、学校での取組について家庭で話をしたり、家庭での災害への備えについて意識して確認し、学校で話しをしたりする生徒もみられるようになってきた。</p> <p>以上のことから、今回の取組は、児童生徒の自ら安全な生活を送ろうとする態度を高めることにつながったと考える。</p>																								
対象者(学年・人数など)	本校児童生徒、及び、教員(小学部、中学部、高等部) 約150名																								
実施実績	<table border="1"> <tr> <td>4月</td> <td>・第1回防災安全委員会の実施 ・防災オリエンテーション(児童生徒対象)の実施</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>・外部講師の選定 ・避難訓練・防災教育の在り方検討 ・第1回避難訓練(火災)と防災教育</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>・防災グループワーク①(教職員対象)の実施</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>・搬送講習会・防災グループワーク②(教職員対象)の実施 ・外部講師による防災研修(教職員対象)の実施 ・「とみそう防災通信①」の発行と保護者アンケート実施</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>・災害備蓄品の点検、配備計画</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>・「とみそう防災通信②」の発行と保護者アンケート実施 ・第2回避難訓練(地震・土砂災害) ・防災グループワーク③(児童生徒・教職員対象)の実施</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>・「とみそう防災通信③」の発行と保護者アンケート実施 ・災害備蓄品の購入・配備</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>・保護者引き渡し講習会(土砂災害)・防災グループワーク④(教職員対象)の実施 ※緊急時の保護者連絡における安心安全メールの活用</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>・外部講師による防災教室(児童生徒・教職員対象)の実施 ・「とみそう防災通信④」の発行と保護者アンケート実施 ・災害備蓄品の購入・配備</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>・第2回防災安全委員会の実施 ・災害備蓄品の購入・配備</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>・防災学習の実施(高等部生徒対象) ・「とみそう防災通信⑤」の発行</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>・備蓄庫の整備 ・災害備蓄品の購入・配備</td> </tr> </table>	4月	・第1回防災安全委員会の実施 ・防災オリエンテーション(児童生徒対象)の実施	5月	・外部講師の選定 ・避難訓練・防災教育の在り方検討 ・第1回避難訓練(火災)と防災教育	6月	・防災グループワーク①(教職員対象)の実施	7月	・搬送講習会・防災グループワーク②(教職員対象)の実施 ・外部講師による防災研修(教職員対象)の実施 ・「とみそう防災通信①」の発行と保護者アンケート実施	8月	・災害備蓄品の点検、配備計画	9月	・「とみそう防災通信②」の発行と保護者アンケート実施 ・第2回避難訓練(地震・土砂災害) ・防災グループワーク③(児童生徒・教職員対象)の実施	10月	・「とみそう防災通信③」の発行と保護者アンケート実施 ・災害備蓄品の購入・配備	11月	・保護者引き渡し講習会(土砂災害)・防災グループワーク④(教職員対象)の実施 ※緊急時の保護者連絡における安心安全メールの活用	12月	・外部講師による防災教室(児童生徒・教職員対象)の実施 ・「とみそう防災通信④」の発行と保護者アンケート実施 ・災害備蓄品の購入・配備	1月	・第2回防災安全委員会の実施 ・災害備蓄品の購入・配備	2月	・防災学習の実施(高等部生徒対象) ・「とみそう防災通信⑤」の発行	3月	・備蓄庫の整備 ・災害備蓄品の購入・配備
4月	・第1回防災安全委員会の実施 ・防災オリエンテーション(児童生徒対象)の実施																								
5月	・外部講師の選定 ・避難訓練・防災教育の在り方検討 ・第1回避難訓練(火災)と防災教育																								
6月	・防災グループワーク①(教職員対象)の実施																								
7月	・搬送講習会・防災グループワーク②(教職員対象)の実施 ・外部講師による防災研修(教職員対象)の実施 ・「とみそう防災通信①」の発行と保護者アンケート実施																								
8月	・災害備蓄品の点検、配備計画																								
9月	・「とみそう防災通信②」の発行と保護者アンケート実施 ・第2回避難訓練(地震・土砂災害) ・防災グループワーク③(児童生徒・教職員対象)の実施																								
10月	・「とみそう防災通信③」の発行と保護者アンケート実施 ・災害備蓄品の購入・配備																								
11月	・保護者引き渡し講習会(土砂災害)・防災グループワーク④(教職員対象)の実施 ※緊急時の保護者連絡における安心安全メールの活用																								
12月	・外部講師による防災教室(児童生徒・教職員対象)の実施 ・「とみそう防災通信④」の発行と保護者アンケート実施 ・災害備蓄品の購入・配備																								
1月	・第2回防災安全委員会の実施 ・災害備蓄品の購入・配備																								
2月	・防災学習の実施(高等部生徒対象) ・「とみそう防災通信⑤」の発行																								
3月	・備蓄庫の整備 ・災害備蓄品の購入・配備																								